

会員の皆様

ご無沙汰しております。

前回の∞メール発信は今年8月9日でしたので、ずいぶん間があきました。申し訳ありません。

この間に、札幌市と鹿嶋市で研修会があり、また、第九回学術集会も開催されました。学術集会はZOOMを用いた初めてのものでした。

学術集会に先立って開催された総会で皆様にお伝えしたように、学会の会計報告が遅れております。集中的に理事会を開催して、会計の問題等の解決を進めております。

さて、新型コロナウイルスは収まらず、さまざまな変化を求められています。当会の学術集会のようにウェブ会議が多く開催されるようになり、多くの方が慣れてきました。今後、参加者が集まる会議よりウェブ会議が主流になると考えられます。条件反射制御法学会も基礎を固めながら、状況に柔軟に対応していきたいと考えます。

今回の∞メールへの投稿は前回に続き、聖明病院の職員の方からです。お二人は一緒に下総精神医療センターの現地研修を受講されました。

静岡で条件反射制御法が普及する発信拠点に聖明病院になることを期待いたします。

平井慎二

下総精神医療センターでのCRCT現地研修を受けて

CRCTと出会ってイメージが確立し確信に変わった5日間

医療法人十全会 聖明病院
看護師 深瀬 緑

私が勤務する病院長から「4月から痴漢と万引きの人を対象に条件反射制御法を病棟で取り入れたい。研修に行くように。」と言われた。

性嗜好障害やクレプトマニアの患者さんは私の勤務する病棟では少数であるが、入院されている。しかし、現場ではどう関わってよいか戸惑っているのが現状であり、そのために導入したいとの考えは理解できた。

「条件反射制御法？」この言葉すら知らなかった私は、ネットで検索してみた。おまじない、4つのステージ、制御刺激、疑似、想像、維持・・・洗脳だろうか、宗教だろうか、なんだか怪しげな治療法としてのイメージを持った。

まず、2020年1月11日、大阪で開催された第5回条件反射制御法関西研修会に参加した。1日研修を通して、ヒトの行動原理について少しずつわかりはじめてきた。

物質摂取行動は最終部分も主に後天的反射に司られるので、その行動を抑制する疑似と想像は最終行動まで再現して効果が生じることは理解できたが、痴漢や万引きは本能行動の過作動で生じ、それらの行動を司る反射連鎖は先天的反射が本流となるため抑制が生じ難いと知り、まずは物質使用障害の患者に導入し、成功体験を積んだ方がよいのかと考えた。

どちらにせよ、勤務する病棟で導入することはとてもイメージできず、こういう治療法があるのかと知識を得るに留まっていた。2週間後に下総での実地研修へ行く予定だったので、何かわかるのではないかと書籍を読んだりしてみても、イメージは湧かなかった。

2020年1月27日から1月31日の5日間、国立病院機構下総精神医療センターで条件反射制御法実地研修を受けた。

疑似の同伴をしたり、患者さんにテストを施行したり、制御刺激や想像の設定の見学など、この実習でしか得られない貴重な体験をさせてもらった。

印象に残っているのが、平井先生が痴漢の疑似の設定をしているところを見学させてもらったことだ。患者Aさんに対して、初回は最終まで、2回目は中断を行った。疑似を行う度に観察票に生じた反応を選択してチェックを入れるのだが、Aさんは反応がなかったことを示すところにチェックを入れた。「治療を進めたいから緊張はしています。」とAさんは無表情で語った。平井先生とAさん、私たち研修生とAさんの自室へ帰ったとき、「平井先生、後で話したいことがあります。」と実習生には知られたくないような様子があったことが気になった。

翌日になって、Aさんは初回の疑似で興奮し、昨夜は眠れず、眠剤を希望し、服用されたと聞いた。反応は出ていた。平井先生は疑似の回数を多く進めるよう指示され、2日後、Aさんの疑似に同伴させてもらった。初日の硬かった表情ではなく、穏やかな表情で笑顔も見られた。実はマネキンを触ってすごく興奮して夜眠れなかったこと、疑似を重ねていくうちに気持ちが落ち着いてきたことを実

習生の私たちにも話してくれた。実習中の数日でこれだけ患者さんの変化がみられるとは思わなかった。

また、条件反射制御法では書く作業が多くあるが、書き出しを患者さん達はどれほどやれるのだろうか、特に標的行動の描写文においては発達の問題がある患者さんにどう書かせることができるのかと思っていた。しかし、後に、知的障害を持つ性嗜好障害の患者さんへの想像の設定を見学した時に、研究補助員の方が患者さんに合わせて工夫して介入をしている事を目の当たりにして感動した。個別の柔軟な対応で、きちんと条件反射制御法を説明し、援助していくことで、発達の問題や知的障害を持つ人たちも治療作業を開始し、継続できるのだと感じた。

素晴らしい治療効果を上げているのは病棟で働く看護師の皆さんの働き、つまり、医師と看護師がトップダウンではなく、平井先生を中心に横並びのフラットな関係でのチームワークにおける各職員の働きによるところが大きいと思った。

また、実習研修生により多くのことが体験できるように実習指導の看護師をはじめ、またそれに協力するスタッフの皆さんのご尽力は本当に有り難く、頭が下がる思いだった。

この実地研修を受けて、勤務する病院、病棟で条件反射制御法を展開していくイメージが湧き、やれそうだ、どこから準備していこうかとワクワクする思いに変わった。

実習の翌週、職場へ行くと、ちょうど性嗜好障害で入院されてきた患者さんが、私が勤務する病棟にいらっしゃった。早速、この方への介入を、一緒に研修を受講した作業療法士の土屋と共に開始した。

一步一步、現場で条件反射制御法を実践していこうと思う。

(2020年2月6日 寄稿)

事務局等からのお知らせ

理事会（2020年11月1日）の報告

理事会の内容を次に示します。

1. 会計について

過去の2年間に関して報告書の作成を進めています。

2. 会員の勤務施設と周辺機関との連携について

条件反射制御法を用いて対応された患者さんが他の施設に移るときは、その患者さんが維持作業を続けられるように、他の施設の職員の方が観察と指導を行うように働きかけてください。維持作業を継続することは問題行動に戻らないように健全な精神を保つために重要です。

また、制御刺激の設定と良かった体験の書き出し（条件反射制御法研究 Vol.6 2018 August pp26-38）は社会内でも安全に行えるので、関係する施設には実施を呼びかけて下さい。

3. 学会HPのトップページの記載の変更

更新前は次の記載でした。

条件反射制御法はパヴロフ学説が示すヒトの行動原理に基づく技法です。この技法は、不適切な行動の根源となる欲求、好まない感情や感覚、パターン化された業務における不注意等を制御あるいは予防します。

会則に従い、次に変更しました。

条件反射制御法はパヴロフ学説を基盤とし、やめられない行動、好まない感情や感覚、業務動作の不適切な発生等を制御するものとして展開してきました。条件反射制御法学会は、ヒトの行動原理を正しく把握する検討を重ねながら、その技法の効果を向上させる研究、ならびに、ヒトの行動を改善させる治療的機関間の連携、および治療体系と刑事司法体系の連携の研究を進めています。

新監事小竹広子弁護士を選出について

残念ながら橘真理夫弁護士の監事辞任がありました。

選挙管理委員会を選挙規定に従って、次のように構成しました。

委員長 長谷川直実

委員 飯野海彦 畑中弘 村上徹

新監事選出選挙の立候補を先月10月16日～今月11月6日まで受け付けました。

小竹広子弁護士が立候補し、他の立候補者がおらず、新監事が決定しました。

CRCT を受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、本学会のホームページで **CRCT 実施施設** を公開しています。

現時点で23施設が掲載されています。今後も増えていくはずです。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛に下記項目をお送りください。

1. 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス
(施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください)
2. 申込窓口 (担当部署・担当者名等)
3. ホームページURL
4. CRCTを提供している場
(例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等)
5. 対象にしている疾病
6. コンタクト方法 (例：電話、E-mail、HP申込フォーム)
7. 施設の特長 (フリーコメント なんでもどうぞ)

援助側と取締処分側の∞連携支持施設について

∞連携は第一信号系に強い効果をもつ援助側と第二信号系に強い効果をもつ取締処分側が、それぞれの機能の摩擦を少なくし、効果的に連携できるように工夫した体系です。

その連携を支える形で違法行為を反復する方々に対応する施設を本学会のホームページ **∞連携支持施設** で公開しています。現在、4施設です。

上のページを開くと∞連携を支持する具体的な方法が掲載されています。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛に下記項目をお送りください。

条件反射制御法学会のご案内

- ・条件反射制御法学会第十回学会（主催：条件反射制御法学会）
2021年 9月25日（土）10:00～18:00 オンライン開催（※Zoom）
上記は予定です。他の学会との重複等によっては、変更があります。

条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご案内

開催を予定している研修会のご案内です。

コロナウイルス感染防止対策の観点から中止させていただく場合があります。

- ・条件反射制御法実地研修（主催：下総精神医療センター）
2020年11月16日（月）～11月20日（金）
2020年12月 7日（月）～12月11日（金）
2021年 1月25日（月）～ 1月29日（金）
2021年 2月15日（月）～ 2月19日（金）
実施場所：下総精神医療センター
- ・第13回条件反射制御法研修会（主催：下総精神医療センター）
2020年11月12日（木）から13日（金）まで
会場：下総精神医療センター
- ・第14回条件反射制御法研修会（主催：下総精神医療センター）
2021年 2月 4日（木）から 5日（金）まで
会場：下総精神医療センター
- ・第五回条件反射制御法四国研修会（主催：条件反射制御法学会）
2021年 3月頃 会場：高知城ホール

∞メールへのご投稿

皆様からCRCTや信号系学説に関係する小論、CRCTを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でCRCTの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。学会事務局で選出して掲載いたします。

事務局のメール、crct.mugen@gmail.com 宛にご投稿ください。

事務局メールアドレス変更のお知らせ

前回の∞メールでもお伝えしましたように、2020年6月に事務局のメールアドレスを変更しました。

◆新メールアドレス：crct.mugen@gmail.com

以前のアドレスは不安定であり、メールの一部が届いていなかった可能性があります。お心当たりのある方は、お手数ですが事務局までご一報くださいますよう、お願いいたします。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町 14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:03-5925-8848 FAX:03-5925-8984